

〔水 稲〕

1. 作付の概況

九州における平成 17 年度の水稲作付面積（青刈り面積控除後）は 20 万 2,300ha で、前年並みであった。品種別の作付状況を見ると、「ヒノヒカリ」の割合が高く、九州のうち品種作付面積の 61%を占めている。次いで、「コシヒカリ」が 16%で、両品種で 77%を占めている（いずれも前年より増加）。次いで「夢つくし」（7%）、「森のくまさん」（3%）と続く。

沖縄における水稲作付面積は 1,060ha で、前年より 40ha（4%）減少した。主力品種「ひとめぼれ」が 84%と前年より 5%減少し、新品種「ちゅらひかり」が 7%を占めた。

2. 作柄の概況

九州沖縄における平成 17 年産水稲の収穫量は 96 万 2,500t で、前年に比べて 10 万 3,600t（12%）増加した。これは、台風の被害を受けた前年よりは 10a 当たり収量が約 50 kg（12%）増加したためである。

しかしながら 17 年の収量は平年より決して高くはなく、九州地域の作況指数は 94、大分が 91、佐賀と熊本が 93、長崎が 95、福岡が 96、宮崎が 97、鹿児島が 98 であった。このうち早期栽培については、主産県の宮崎県と鹿児島県がいずれも 105 であった。また、沖縄の作況指数は 92 であった。

3. 生育の概況

1) 普通期水稲

九州地域では特に 6 月の降雨が少なく福岡、長崎、大分、宮崎の山間部など一部地域で移植が遅れたが、多くの地域では高温多照により移植後の初期生育は良好であった。その後 7 月上旬の寡照により生育が抑制されたが、7 月中旬の梅雨明け後は高温多照となり、穂数は平年よりやや多くなり、一穂粒数は平年並みかやや少なく、単位面積当たり粒数は平年並みないしやや増加した。出穂期は梅雨明け後の高温により平年より 1~2 日早くなった。登熟は全ての県で不良~やや不良となった。その要因は、1) 出穂後 10 日前後に来襲した台風 14 号（9/6）（一部では潮風害）による穂ずれ、粒ずれを伴う不稔、子実の発育停止、2) 台風前後の日照不足と出穂後 15 日頃以降の断続的な高夜温（筑後で平年差 3.3℃）による登熟歩合と千粒重の低下、3) トビイロウンカ、紋枯病、もみ枯れ細菌等の多発による充実不足が挙げられた。これらの要因は、玄米充実不足や乳白米等未熟粒の発生をもたらし、九州全体の一等米比率は、台風等で極めて低かった前年産の 27.6%に近い 31.9%となった。特に「ヒノヒカリ」は 15.6%と、前年の 14.8%に続く顕著な品質不良となった。

2) 早期水稲

3 月中下旬の低温により活着が遅れたものの、その後は平年並み~やや高温となり穂数は平年より多かった。一穂粒数も平年並み~やや多くなり単位面積当たり粒数は平年より多かった。出穂期は平年より 1 日程度遅かった。登熟は 7 月上旬の日照不足により不良~やや不良となった。

なお、沖縄県の 1 期作では田植期から出穂期にあたる 2 月下旬から 4 月にかけて低温寡照で推移し、出穂期、収穫期ともに 4,5 日遅れた。収量は粒数の減少により作況指数 86 の著しい不良となった。品質は 2 等以上の比率が 71%と、前年の 53%より向上した。2 期作では生育期間を通して高温で、沖縄本島では台風の接近がなく作況指数が 115 と良好であったが、八重山地域は台風襲来が相次いで作況指数は 90 と不良となった。品質についても 2 等以上の比率が 30%と不良であった。

4. 被害の概況

九州沖縄地域の被害総量 16 万 7,400t で被害率は 17.4%と平年を 6.7 ポイント上回った。被害種類別に見ると、台風や高温、日照不足による気象被害が 9.6%で平年を 4.5 ポイント上回り、虫害は 3.1%であった。

なお沖縄県の 1 期作では新品種「ちゅらひかり」の導入により、「ひとめぼれ」に比べて明らかにいもち病の発生が少なかった。

2005年産水稻の作付面積と収穫量

区 分	作付面積	10a当たり 収量	収穫量	作況指数	前年との比較					
					作付面積		10a当たり収量		収穫量	
					対差	対比	対差	対比	対差	対比
	(ha)	(kg)	(t)		(ha)	(%)	(kg)	(%)	(t)	(%)
全 国	1,702,000	532	9,062,000	101	5,000	100	18	104	341,000	104
九州計	202,300	474	959,500	94	400	100	50	112	103,700	112
福 岡	41,600	482	200,500	96	△ 500	99	67	116	25,800	115
佐 賀	29,500	491	144,800	93	200	101	69	116	21,200	117
長 崎	14,700	450	66,200	95	200	101	20	105	3,800	106
熊 本	42,600	479	204,100	93	300	101	83	121	36,600	122
大 分	26,200	459	120,300	91	0	100	27	106	7,100	106
宮 崎	21,800	473	103,100	97	100	100	11	102	2,800	103
鹿 児 島	25,800	467	120,500	98	△ 200	99	28	106	6,400	106
沖 縄	1,060	283	3,000	92	△ 40	96	2	101	△ 90	97

注) a) 資料:「平成17年産水陸稲の収穫量 平成17年12月1日公表」農林水産省大臣官房統計部。
b) △は減少量を示す。